

# 10 古文1 係り結びと反語

組	
番号	
氏名	

1 次のそれぞれの和歌の中で使われている係りの助詞に  
 を引きなさい。また、それに呼応している結びの言葉に  
 を引きなさい。

道のべに清水流るる柳陰しばしとてこそ立ちとまりつれ  
 山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば

2 次は「徒然草」の一節です。これを読んで問いに答えなさい。

注1 城陸奥守泰盛は、注2 双なき馬乗りけり。馬をひきいださせけるに、  
 足を揃へて、しきみをゆらりと越ゆるをみて、「これは勇める馬なり。」  
 とて、鞍をおきかへさせけり。また足をのべて、しきみにけあてぬれ  
 ば、「これは鈍くしてあやまちあるべし。」とて乗らざりけり。道を知らざらん人、かばかりおそれなんや。  
 (「第百八十五段」より)

注1 城陸奥守泰盛 II 「秋田城の介」である安達泰盛。  
 注2 双なき II くらべものがない。  
 注3 しきみ II しきい。

## 【現代語訳】

秋田陸奥守泰盛は、無双の馬乗りであった。馬を引き出させたところ、足を揃えて、敷居をゆらりと越えるのを見て、「これは気のはやった馬だ。」と言って、鞍を他の馬に置き換えさせた。また足を伸ばして、敷居に蹴あてると、「これは鈍くて、過ちがあるだろう。」と言って乗らなかつた。道を知らないような人が、これほどに慎もうか。

① 「道を知らざらん人、かばかりおそれなんや。」とは、どういう意味

を表していませんか。適切なものを次から一つ選び答えなさい。  
ア 道を知らないような人は、馬に乗ってはいけない。  
イ 道を知らない人だからこそ、これほど慎重になるのだ。  
ウ 道を知らないような人は、これほど慎重にはならない。  
エ 道を知らないような人は、慎重でなければならぬ。

**注** 「や」に着目しよう。

ウ

② 「道を知らざらん人、かばかりおそれなんや。」の意味していることを、「道を知る人は、」という書き出しに続けて書きなさい。

道を知る人は、人一倍慎重である。